

◆「新しい川崎」メール版◆

－2026年3月24日第221号－

<目次>

● 第1回川崎市議会最終日、官僚出身の副市長人事で質疑

◆ 新しい市民と野党の共闘の再構築を～高田健さんが語る～

★ お知らせコーナー

① 3/7 川崎平和館「川崎大空襲記録展」戦時下の市民生活と川崎大空襲

② 3/17～ 中原空襲展

③ 4/26 ゆめシネマ上映会「タイムグラバあちゃん」

★ 編集後記

● 第1回川崎市議会最終日、官僚出身の副市長人事で質疑

2026年第1回川崎市議会は、3月18日に、2026年度の一般会計予算案や市総合計画改定案など73議案を原案通り可決し、閉会しました。

メルマガ「新しい川崎」では、昨年末から、予算案の問題点や総合計画改定案の問題点を発信してきましたが、原案通り可決されたことに対し、今後も、その後の施策を注視していきます。

最終日に注目が集まったのは、福田市長が初めて中央官僚を副市長に選任したことです。

川崎市の副市長の定数は3人で、この3月で2人が任期を終えます。

そして、新たな副市長として、市上下水道局管理者の白鳥滋行氏(61歳)と国土交通省大臣官房参事官の八尾光洋氏(54歳)が提案され、質疑ののち、承認されました。

質疑では、共産党の井口真美議員が討論を行いました。

「八尾氏は、1996年、建設省(当時)に入省以来、一貫して国土交通省関連の仕事をされており、現在は国土交通省でグローバル戦略を担当する大臣官房参事官です。

本市の幹部職員の中には、市政に精通し、市民本位のまちづくりに尽力されてきた方がたくさんおられると思います。内部からの選任を検討されたかどうか伺います。

また、なぜ国から招請したのかも伺います。」

さらに、再質問では、

「本市では国から招請して副市長を選任したのは、2009年以來です。

その際も国土交通省からで、当時の市長も『都市基盤整備の専門家として豊富な知識を生かしながら、国や関係機関との調整役として積極的に取り組んでいただける』と述べました。

そうやって「具体化した事業」とは、川崎縦貫道路であり、羽田連絡道路であり、臨港道路東扇島水江町線など、不要不急の大規模事業です。

それが今の市財政に大きく影響しています。

その一方で、未曾有の物価高、生活苦のなかで、市民生活を最優先に守らなければならないという地方自治体の役割がはたせていません。

例えば経済対策や雇用対策などで、本市の実情をよく知り、ともに苦悩している職員を登用し、市を挙げて乗り切ることこそ求められているのではないのでしょうか。」

福田市長は、官僚出身の人事案についての報道陣の17日の取材に対し、「市全域で大きなプロジェクトが同時並行で進んでおり、これまで以上に国との連携が欠かせない。」と八尾氏の選任の狙いを語りました。

井口議員は、最後に、以下の意見で締めくくりました。

「結局、不要不急の大規模開発を進めるに当たって、国とのパイプを太くするために行われる人事です。

これは、市民のために働こうとする多くの職員の意欲を損ねることにもなりかねません。

副市長の選任に当たっては、女性の選任という視点も含め、有能な市の職員から適任者を選出すべきです。

よって、我が党は、市長が提案した副市長選任議案には同意できないことを表明して、質問を終わります。」

2013年市長選で、福田氏は、阿部市長（当時）が推薦した中央官僚出身の候補者を破り、「市民派市長」として市民の支持を集めてスタートしました。

あれから13年、福田市政の4期目の4年間は、市民生活の向上よりも、国の施策の先導役への転換を加速していくのではないのでしょうか。

(H)

◆ 新しい市民と野党の共闘の再構築を～高田健さんが語る～

中原革新懇は、3月18日に、総がかり行動実行委員会の高田健さんを講師に、「改憲反対・戦争させない中原市民アクション」を行いました。

翌19日には、高市首相がトランプ大統領と会談し、日本がトランプの無法な戦争に大きく加担するのではないかと、という緊迫した状況の中で、45名が集まり、高田さんの話に耳を傾けました。

以下、感想も交えながら紹介します。

<まず、総選挙前までの政治状況について>

昨年末、高市首相は自らの[行き詰まり]を打開するための「自己都合解散」に打って出た。

高市首相の行き詰まりとは、「台湾有事＝存立危機事態発言」で、東アジアの重大な緊張をひきおこし、日中関係が抜き差しならない事態にしたこと、そして、国会では少数与党という立場であり、予算委員会も憲法審査会も「野党」が多数だった。さらに、頼みの自民党内での基盤も弱かった。

<選挙結果は、高市首相に文字通り「活路を開いた。」>

高市勝利の要因は2つ。

一つは、「失われた30年」に対する世論の不満・不信。

2つは、日本の憲政史上初めての女性首相の登場への期待だ。

2月選挙以後、高市首相は、圧倒的多数の自民党議席を獲得し、国会はまさに様変わりした。

同時に、自民党内でも確固たる力をつけて、自分のやりたかったことができるようになった。

<高市首相がやりたかったこととは>

第1は、敵基地攻撃能力の強化だ。これまで、自衛隊について、仮に戦争が始まったら数日で戦争を継続できなくなると言われていた。

その打開のための「継戦能力」の強化だ。

第2は、安保三文書を改定し、軍拡を堂々と推進すること。
トランプの「軍事費5%要求」の実現だ。

<総選挙後の国会は改憲シフトに変身>

高田さんは、高市内閣を「改憲と戦争準備の内閣」と断じた。
これまで野党の手にあった衆院憲法審査会の会長は自民党に奪い返され、同党の改憲派の切り札的存在の古屋圭司が就任した。

参院はまだ前のままで野党が強いとはいえ、高市首相の意を継いで衆議院憲法審が暴走し、改憲条文起草委員会の設置にすすむ準備が整った。
高田さんは、「衆議院憲法審査会50人中、改憲反対は何人いると思うか？」と質問し、「2人だけ（共産党・畑野議員と中道・有田議員）だ」との回答を聞いたとき、会場からは、ため息が聞こえてくるようでした。

<改憲を阻止する力はどこに>

「中道」の誕生で、これまでの市民と野党の共闘は終わったと高田さんは言いました。
続けて、しかし最近の市民運動に新しい息吹が起きている。

「2015年安保闘争」以来の10年余の経験を学びつくし、さらに韓国の民主化闘争の前進と、米国での社会民主主義派の登場に学ぶ必要がある。
市民は、戦争と改憲を止めるために、もう一度立ち上がることが必要だ、と締めくくりました。

総がかり行動の先頭に立ち続けてきた高田さんの危機意識の深さと、新たな市民の運動への確信は、参加者を励ます熱いメッセージとなりました。

翌日、高田さんの呼びかけに応え、15名が「3.19国会議員会館前行動」に参加して、「新しい息吹」を体感し、次の「3.25国会正門前行動」や「毎月の19行動」にも参加しようとの呼びかけが始まっています。

市古博一（中原革新懇事務局）

★ お知らせコーナー

① 川崎平和館「川崎大空襲記録展」戦時下の市民生活と川崎大空襲

3/7～5/10 まで

川崎市平和館

主催 川崎市平和館

入場無料

② 中原空襲展

4/17～22

中原市民館 1 階ギャラリー

主催 川崎中原の空襲・戦災を記録する会

入場無料

③ ゆめシネマ上映会「タイマグラばあちゃん」

4/26 ①9時 ②12時 ③15時

かわさきゆめホール

岩手県のほぼ真ん中に位置する早池峰山の麓に戦後、“タイマグラ”と呼ばれる小さな開拓地がつくられ 10 軒あまりの農家が入植した。

しかし、東京オリンピックの頃までにはほとんどの家が去り、残ったのは向田久米蔵さん、マサヨさんの夫婦二人だけだ。そして。

[予告動画](#)

★編集後記

満で 69 歳を迎えた日、秩父の三峰神社を参拝。

賽銭箱の横に厄の年やら還暦が何歳とかの表が立てかけてあって、そこに古希は満 69 歳とあり、なんと俺も古希か。妻と笑いあいました。

前日は山田の春祭りを堪能し、興奮しながら町を歩き回っていた男が古希の爺さん。(笑) 三峰神社の売店で宮前区土橋の女性が制作した映画と本を見つけてまたも興奮。

それは、宮前区土橋の旧家に生まれ育った女性が、それまでの豊かな里山から急激に開発されて近代化する地域で、翻弄されつつも、古い土蔵に張られたオオカミの護符にいざなわれて、地域に伝わる信仰や、歴史を紐解いていくお話です。

作者の小倉美恵子さんは私より少し下の年齢ですが、子ども時代には新住民がどんどん増え、おしゃれな新築住宅が並び、都会的センスの住民たちに囲まれて、古い家に住むお百

姓の子であることが恥ずかしく感じたそう。

その時、恥ずかしいと思った父母、祖父祖母へ詫びるような気持ちでビデオを撮りため、映画に結実したといいます。

オオカミの護符は、昔、オオカミが、イノシシや鹿を駆除して、農作物を守る大きな役割を果たしていたことの名残だそう。

日本の山の生態系のバランスを守る大事な役割を果たしていたオオカミ。今ではその生態系が崩れて鹿の異常繁殖や熊の出没で大変なことになっています。

このオオカミの護符は、奥多摩の御岳神社の信仰と御岳講によってもたらされますが、御岳山から奥多摩をさらに上っていくと雲取山を越え、秩父に到達する事が出来ます。

このビデオと文庫本がなぜ、三峰神社の売店に置かれていたのかという話になりますが、この先は、是非このビデオを観るか本を読んで勉強してくださいませ。

ところで、締めの手拍は、江戸では3 3 3 1を1本と3本で締めます。

秩父の春祭りで見えた締めの手拍は、「チョンチョンチョン、よっ、チョチョンチョン」とやり、祭りの中心となった代表者が、第1の締め、に始まり第4の締めまであいさつしながら締めていきます。

このやり方が、宮前区土橋でも連綿と受け継がれていることにびっくり。

私の住まいは丸子の宿場があり、街道で江戸に直結して江戸の影響を強く受けたのかもしれない。

神輿を大きく横に振るヨコタという担ぎ方は羽田が発祥と言われます。

宮前区あたりは、むしろ山の信仰が強かったのかもしれない。

宮前区鷺沼では、住民の反対を押し切って再開発の工事が始まりました。

中原区の等々力緑地でも PFI による大規模開発がすすめられ、西加瀬でも物流倉庫の工事が始まりました。

何故こうも市民の願いは踏みにじられるのか。

古希になったと言って老け込んでいるわけにいきません。(Y)

[「オオカミの護符」\(新潮社\)](#)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき!☆☆